



渡部 勇

伯耆橋に単独歩道橋を 別案で県に要望中

渡部 町長が就任され八ヶ月がたち町政に経営感覚を取り入れると言っておられたがどのような取り組みを。

町長 経営感覚との思いは、役所仕事は、基本的に前例を踏襲しながら行うもので、法に根拠、現場の状況、事業効果を検討し、物事をすすめていくようにしてほしい、そういう考え方を言ったものです。職員ひとりひとりに心がけてほしい。

渡部 職員の意識改革、職員の一人一人のスキルアップを図りたいと述べておられますが。

町長 現場を見ると同時に外を見てほしいという気持ちがあり、研修参加なども、きびしい財政状況だが、その機会を見つけてスキルアップを図りたい。

渡部 森安町長の特徴が出せる、予算案があれば教えて下さい。

町長 私はトップダウンが好きではない。予算編成のまえの段階で私が申し上げて、方向を縛るわけにはいかない、ただ足りないものがあれば編成時点でものを言いたい。

渡部 伯耆橋の歩道橋について計画案があるのかどうか。

町長 伯耆橋は交通の要所になっている。管理者は県であり、要望・現場の確認をしているが、計画はないとの事であるが、大寺を通り日野川



大寺側から見た伯耆橋

に架橋、石州府に至る大寺の県道ルートを県に要望中である。

渡部 町立植田写真美術館は、観光収入目当てならば担当は商工観光室で、教育委員会担当ならば、幅広い文化教育に寄与するのは当然だが、今の美術館はどうなのか。

町長 所管はこだわらない、プラス運営モードでやり、最終的に地域にとって、有益な施設になればいい、目線は広く、効果が出るようにと職員には言っている。

渡部 今まで小・中学生の作品展示がないのはなぜか、また展示室D室は空いている、写真に限定せず、町民の作品展示に開放することができないか。

町長 町立写真美術館として作っており、植田正治さんから作品を寄付してもらった訳で、その大原則から外れることは出来ない。館のなりたちから、写真以外の作品展示は出来ない。

渡部 町民の疑心暗鬼は「赤字が続いているのに契約解消できないのは、

町にとって不利な内容で契約をしたから」というもの。契約内容の公開が前提で、誤解の解消や健全な議論ができる。

町長 契約書は隠した状態で議論をすすめたわけではない。あくまで個人と町との契約であり、これを広く公開、公表するものではない。ただ、情報開示請求があれば開示を行う。

また現段階でいろいろな意見があり、内容についても、履行が果たされていないことも、若干ある状況から考えて、美術館のあり方は財団の広域法人制度化を、二十五年までにするため、なんらかの見直しが必要である。